

衛生環境センターの機能と国際協力

はじめに

衛生環境センターは、県民の公衆衛生の向上および生活環境の保全を図るために設置されている機関です。実際の業務としては、保健衛生並びに公害の防止と生活環境の保全に関する情報の解析提供、試験検査、調査研究のほか、技術研修や講習を行っています。技術研修については、保健所や他府県などの県内外の関係機関から種々の研修依頼がありますが、その他に国、県庁、国際協力事業団等からの依頼により、海外からの研修員に対しても行っています。今回は、当所で行っている技術研修を中心とした国際協力の現状について紹介します。その前に、海外からの技術研修員の受け入れに対して深く関わっている滋賀県と海外の州・省との姉妹協定関係についてお話しします。

滋賀県と海外の州・省の姉妹協定

滋賀県は、現在、米国のミシガン州（1968年に協定）、ブラジルのリオ・グランデ・ド・スール州（以下 RS 州、1980年に協定）および中国の湖南省（1983年に協定）の3カ国と姉妹

協定を結んでいます。1979年度より開始された滋賀県海外技術研修員制度により多くのブラジルおよび中国からの技術研修員が県内の種々の企業をはじめとして、当所など県の機関でも研修を受けています。姉妹協定を結んでいるブラジルや中国をはじめとする技術研修員の受け入れについては、商工観光労働部国際課が行っています（姉妹協定の詳細については、滋賀県ホームページの国際課のサイトに掲載されています）。

衛生環境センターの国際協力

衛生環境センターで行っている研修の内容としては、1日で終わる見学や講習のほか、日数を要する技術研修も行っています。技術研修では1週間ぐらいで終わる場合もありますが、数ヶ月間に及ぶ場合があります。1996年度から現在までの海外からの技術研修員の受入状況については、表1に示しますように、ブラジル RS 州、中国湖南省、タンザニアおよびケニアからの研修員が研修を受けてきています。環境関係を中心とした1~3日間の見学者や講習を含めると、最近では毎年のように海外からの来庁者があります。

表1 海外技術研修員の受入状況

年度	研修期間	研修科目	出身地	職務	人員
1996年度	8月19日～ 3月21日	微生物学:知識と検査法	ブラジル RS州	RS州中央公衆衛生研究所員	1名
1998年度	5月6日～ 5月21日	真菌検査法と地研の業務内容	ケニア ナイロビ市	ケニア中央医学研究所研究員	1名
1999年度	9月27日～ 9月30日	食品細菌と抗菌性物質検査法	ブラジル RS州	RS州農務供給省職員	1名
1999年度	11月15日～ 12月10日	微生物検査法ほか当所業務把握	中国 湖南省	湖南省醴陵市衛生防疫所医師	1名
2000年度	2月7日～ 3月14日	食品微生物検査法と関係知識	タンザニア ルワンザ市	ニュゲジ淡水漁業訓練所科長	1名
2002年度	9月2日～ 3月14日	食品微生物学:知識と検査法	ブラジル RS州	サンタ・クルーズ・ド・スール大学職員	1名



写真1 微生物担当細菌第1室での実習

2002年度滋賀県海外技術研修員の紹介

今年度、当所で研修を受けているのはブラジルRS州のシモーニ(Simone Beatriz Dreher)さんです。シモーニさんは、ブラジルRS州のサンタ・クルーズ・ド・スール大学で中央分析室生物部門の技術アドバイザーをしています。当所での研修期間は昨年9月から今年3月までの7ヶ月間で、研修の主な目的は食品微生物に関する知識と検査法の習得ですが、その他の関係する技術研修も受けています(表2、写真1)。研修場所は、その殆どが微生物担当の実験室ですが、関係機関での技術研修や施設の見学も行っています(写真2)。これらの研修を通して、食品微生物に関する研修に限らず、将来に役立つ研修内容にしたいと計画しているところです。



写真2 神戸検疫所での訪問研修

表2 研修概要

研修区分	研修内容
所内研修	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の細菌検査法 ・食中毒菌の検査法 ・環境細菌の検査法 ・小型球形ウイルス検査法 ・原虫の検査法 ・病原体遺伝子の検査法と疫学解析法 ・食品衛生法の成分規格と試験法 ・プランクトン検査法
所外研修	<ul style="list-style-type: none"> ・関係する施設の見学 ((財)日本食品分析センター、(株)高島屋、(株)一正蒲鉾、厚生労働省神戸検疫所、県の機関) ・研究会への参加 (日本食品微生物学会セミナー、地研全国協議会近畿支部細菌部会研究会) ・真菌検査法
所内交流会	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラジル、RS州、仕事の紹介

ところで、これまで長期研修員の方々には、母国の状況や仕事の紹介をお願いし、相互の理解を深めるため所内交流会を開催してきました。今回も昨年10月31日に「ブラジル、住んでいる町、しごと」と題して、写真や図表を映しながら1時間ほど話をさせていただきました。

このように、海外からの技術研修員の研修を行っていますが、研修を通して国際友好がますます前進するよう願ってやみません。また、研修に際しては所内外の関係者の協力があってこそ充実するとも思っています。シモーニさんの研修も終盤になってきましたが、研修報告会では日本語で話せるようにとがんばって研修を続けています。

【微生物担当】